



こんな日もありました  
入園式直後の写真です  
Date 2014.4.15  
Photo by Hiroshi Takasugi

## “親心の四季”

園長 高杉 洋史

春、夏、秋、冬と一年には四季がありますが、幼稚園の3学期に実りの秋を感じます。年少組の4月や5月、担任の「並びましょうね」の声に、われ関せずというふうに遊んでいた子どもたちが、次第に自分と友達の関係が分かるようになり、夏休み前には昨日とか明日というような時間の流れもわかるようになりました。友だちや担任、副担任、

そのほか多くの先生との人間関係が密になり、自分の気持ちもそれなりに表現できるようになりました。先生のほうも子どもたちの性格がしっかり飲み込め、一人ひとりにふさわしい発達の課題に向き合えるのが3学期です。このことは年少組に限らず、どの学年にも言えることです。

子どもたちもこの一年育ちましたが、教諭も育ちました。その成果を一緒になって表現する季節です。表現発表会のため子どもたちの話し合いや練習に一年の育ちが見てとれます。お忙しいお母さん、お父さんほど、この時期の我が子の行動や話に耳を傾けてあげてください。きっとたくさんの実りが見えてきます。「星の王子さま」が言うように心の目で見ることです。肝心のことは心の目でないとみえないのです。

こうして安定したクラスも3月までです。4月になると大きな変化が待っています。人の脳は変化や不確定なことを好むようにできているのだそうです。人の進化とも関係している性質のようで、他の哺乳類と大きく異なる性質のようです。人が野球やサッカーはじめスポーツに興奮するのもこのせいでしょう。一方動物園の動物たちは一度慣れたところから新しい居場所に移すのはとても難しいという話を聞きました。動物は変化を好まない性質を持っているからなのでしょう。年長の皆さんは小学校に進学です。大きな変化です。それだけに子どもたちの心は大興奮でしょう。ここ数年、保幼小連携で、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行に注意が払われるようになりました。とても大切なことで、できるだけ不安を和らげてあげたいものです。その一方で、子どもの心は新しい期待に膨らんでいます。こちらにも配慮が必要です。教諭も親も踏ん張りどころの3学期です。

